

小屋作りプロジェクト（年度末報告書）

メンバー：リーダー 境田 瑛之（経済学部 一回生）
鎌野 帆（システム工学部 一回生）
繁下 美和子（システム工学部 一回生）
新明 郁実（教育学部 一回生）

1. プロジェクト設立の経緯

自分たちの力で小屋を立ててみたいという意思を持った者が集まり企画を探していました。その時メンバーの一人が小学校の頃の恩師と連絡を取り始めたことをきっかけに、小学校（河内長野市立天野市立小学校）の農作業場近くに農具倉庫を建ててほしい、という話をいただきました。今ある倉庫は畑から遠く、肥料などは畑近くに野晒しでおいているという現状を聞き、畑近くにある方が小学生や先生方の作業効率があがることや、農作業場の近くの空いた場所を農具や肥料の保管場所にする事で空いたスペースの有効活用にもなると判断し、このプロジェクトを設立することにしました。

その後、幼稚園（泉佐野市立のぞみ幼稚園）の方からも、今ある園児たちの遊び小屋が老朽化してきたため小屋を建て替えて欲しい、との要望がありました。こちらは農具倉庫に比べ規模が小さいということで木材加工の実践練習ができるということもあり、取り組むことにしました。

2. 本プロジェクトの目的

このプロジェクトの目標としては、小屋を立てることですが、最終的な目的としては、小屋作りを通して材料の調達から製作までの流れを学び、計画性や行動力を養うことを目的としています。

3. 今年度の活動

前期：小学校の農具倉庫の模型作り

構造の安全確認

積算

後期：幼稚園の遊び小屋の模型作り

積算

材料加工（三月中旬予定）

建設（三月中旬予定）

活動の詳細

・ 小学校の農具倉庫

プロジェクト発足当初、担当教員に「とりあえず、どのような形でもいいので模型を作ってみてはどうか」と言われ、一番初めに校倉作りの小屋の模型（図1）を作ってみました。（模型作成には、模型用木材を使用しています。）



図1：校倉作りの小屋の模型

しかし、作ってみたものの、このような小屋を作るとなると、予算が高くなる上、技術的にも非常に難しく、実際に校倉作りの小屋を作るのは厳しいと判断されました。



図2：説明に使用された模型

その後、担当教員から授業で使用したりもする木造建築物の基本構造を学ぶための模型（図2）を使って、基本的な構造を学びました。



図3：農具倉庫の模型

そして、もう一度小屋の構造を考え直し、模型を作り直しました（図3）。主に小学生が使うということで安全面はもちろんのこと、金銭面や耐久性、技術的なことを考慮し何度も作り直した結果、最終的な構造も決まり実際同様の模型（図4）も作り上げました。（小屋の模型は実際に建てるものの1/20の大きさで作成しました。）

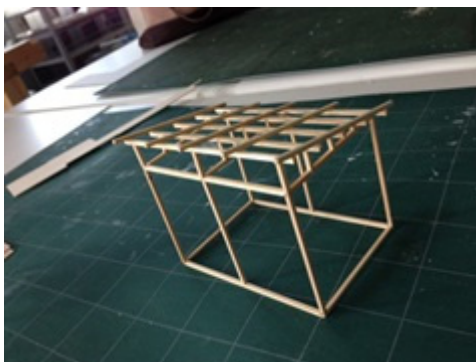


図4：農具倉庫の模型

その後は実用性を考えて、小屋の中に作る棚をどのようなものにするか、安全面から出入り口の段差はなくした方がいいか、などといった細かい部分の話し合いを進めました。そして最終的には必要な木材の太さ、長さ、本数も決め、大まかな予算の算出もしたのですが、今年度の予算は小屋を建てるのには不十分だったため、実際に小屋を建てることはできませんでした。そのため今年度は、来年度に小屋を建てるための準備期間としました。

・ 幼稚園の遊び小屋

こちらの方は、幼稚園側（泉佐野市）から予算を出していただけるとのことだったので、後期での活動はこちらを中心としました。

元々、老朽化した小屋を立て替えてほしいという話であったため、元からある小屋とあまり変わりのないデザインの小屋にしようと考え模型（図5）を作りました。



図5：遊び小屋の模型



図6：遊び小屋の模型

しかし、担当教員の方から「せっかく学生が作るのだから、もう少し遊び心を取り入れたものにしてはどうか」というアドバイスをいただき、また一から考え直すことにしました。また担当教員から実際に子供の参加するイベントで使用したフラードームを借り、それを実際に建ててみました。

これをきっかけに遊び小屋はドーム状のものにすることに決まり、材料は竹を使用することに決めました。竹ひごや柔らかい材質の木材を使用しドーム状の模型をい

くつか作ったのですが（そのうちの 하나가 図7）、実際に建てる小屋の模型は縮尺を小さくしすぎたために使用材木の曲げが大きくなりすぎて、完成直前にそれに耐えられずに折れて崩壊してしまったりと、残念ながらこの報告書を作成した段階では、最終的な模型が完成しておらず、写真を掲載することが出来ませんでした。なお、竹は担当教員の知り合いにもらうことになっており、三月中旬には建てる予定ですので、年度末発表会の時に詳細を報告したいと考えています。

（2014年3月2日現在）



図7：ドーム状の小屋

4. 今年度の活動を通しての反省点や学んだ点

プロジェクトを設立するにあたって予算の審査がある、ということは聞いていましたが、一回生のみで右も左もわからない状態で立てたずさんな計画で臨んだ結果、予算10000円からのスタートとなってしまいました。その後も、設立当初は計画性も全くなく、小屋を建てよう、という漠然とした目標はあったものの具体的には話が進まず、集まっても「どうしよう」と言い合うだけで、何から手を付けたらいいのかわからず、ただ時間が過ぎていくだけの日々を過ごしてしまいました。しかし、担当教員の助言により模型作ることから始まり、小屋を建てるにあたってのある程度段階的な計画を立てることができ、何とか前に進むことができました。

今年度は予算不足ということもあり実際に小屋を建てるといった成果は出せませんでしたが、前もって計画を綿密に立て、段階的に物事を進めることの大切さを学ぶことが出来ました。これは来年度の企画の際に生かすよう努めたいと考えています。

また、小屋のデザインを考えるにあたって、それを使う人の視点を考えることの大切さも学ぶことが出来ました。今後はこのプロジェクトにかかわらず様々な分野で生かしていきたいと考えています。

このプロジェクトは多学部から構成されています。今年度、特に後期はそれぞれの得意な分野に仕事を振り分け、分担して活動できたことはよかったと思っています。ただその分、情報の共有といった点で不十分であったと感じることも多く、これは反省すべき点であると考えています。これからの活動や実際に小屋を建てる際には情報の共有ということを重視し、仕事は分担した上でお互いの仕事の内容を把握し合えるような状態にしていきたいと考えています。

5. 来年度の課題と活動内容

来年度は、今年度に達成することができなかった小学校の農具倉庫を完成させることを主な活動とすることにしていきます。活動するにあたって一番必要なことは小屋を建てるために必要な予算を獲得することです。そのため、今年度作成した大まかな予算を見直し、再度小屋制作にかかる費用を正確に算出し、予算申請に臨みたいと考えています。

また、今年度の後期から、木材を購入した後の保管場所や加工場所を大学の施設整備課の方に掛け合ってみたのですが、それもまだ決まっていないので、再度、和歌山大学内にある実験場を候補に掛け合ってみる予定です。同時に、小屋を建てる際に指導していただく大工さんを探していたのですが、こちらは担当教員の知り合いの方に一度相談してみる予定です。

まだ解決しなければならない問題は多く残っていますが、来年度はその問題点を1つ1つ確実に解決すべく、今年度学んだことを最大限に生かして活動できるよう努力していきたいと思っています。